

令和 7 年度

事業所名： グループホーム みどりの里（西ユニット）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホーム みどりの里（西ユニット）		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市第40地割22-2		
自己評価作成日	令和7年8月20日	評価結果市町村受理日	令和7年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・委員会活動に力を入れている。職員全員がいずれかの委員会に所属し、自分たちの委員会が対応すべき課題や改善点について随時話し合いの場を設けて話し合った内容を記録に残し、誰でも閲覧できるようにしている。年間研修スケジュールにそって、各委員会が資料を作成して職員全員で学びを深めている。職員は研修ごとに「学んだこと」「これからどのようにいかにさせるか」を研修報告書として提出している。  
 ・不定期で「みどりカフェタイム」としてご家族を施設内にお招きして利用者と一緒に時間を設けている。毎回、多数のご家族に参加いただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設から15年を経過しており、国道45号線に近く、デイサービスセンターに隣接して立地している。当初から継続する理念「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」は管理者が職員から相談を受けた時の拠り所にするなど介護の実践に活かされている。職員の年齢に幅があり利用者の孫や娘、妹のように寄り添ったコミュニケーションが図られている。介護度が高い利用者、車椅子を利用する方が多く、座位が取れない利用者もあるなど、グループホームとしての介護が難しい場面も多いが、職員の話合いによる工夫と努力で支援が継続されていることは、利用者の安心や、家族からの信頼につながっており、評価に値する。コロナ禍で様々な困難な事案があるものの、研修による職員の資質向上や運営推進会議の活用などによる地域との連携の充実を図るなど、今後もさらに介護ケアを向上させることを期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年9月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所、玄関、職員休憩室に理念を掲示し、職員が常に確認・意識できるようにしている。毎月行われる利用者全員のカンファレンスにおいても、個別のサービスが理念に沿ったものかを確認している。	設立当初、皆で話し合って作成した理念を継続しており、事務室など目につきやすいところに掲示している。管理者は職員から相談を受けたときには、理念にある「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」に立ち返って話し合い、実践に結び付けるなど介護支援の拠り所として活かされており、利用者、家族の安心につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加し、募金活動に協力している。毎月届く町の広報誌では、地域の行事や知人の名前を見つけては懐かしんでいる。運営推進会議メンバーには、地域の住民にも参加いただき、地域の情報収集の場となっている。	地元、角浜町内会に加入しており、町広報などが届けられているが、コロナ禍のため地域行事の案内も無く、車いすの利用者が多いことなどもあって地域に出かけることも少なくなっている。運営推進会議に参加していただいている地域の方々との情報共有などにより、コロナ後の地域交流をどのように進めるか検討することとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	長期入所申し込みに来られた方に、事務的な受付だけではなく認知症ケアの方法などをアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で定期開催し、施設状況の報告や意見交換、町内の他の施設での動向などの情報交換、またアドバイスを受ける機会となっている。利用者の家族もメンバーとなっており、利用者も一緒に会議に参加される事もある。会議議事録を後日職員に回覧し、情報を共有している。	コロナ禍による書面会議の時期を経て、集合形式での会議が続いていたが、7月には風邪の蔓延があり細心の注意を払って書面会議とした。9月にはまた集合形式での開催予定である。昨年の助言もあって議事録を作成し職員に回覧することにより情報共有も円滑に行われている。	議事録の作成が行われていることから、その議事録を次回の会議で委員に配布すること、報告の中にヒヤリハットを含めること、により委員からの意見の活発化が図られるものと期待します。特に、委員からの意見提言については、次回以降その内容の検討状況や検討結果等を伝えることも大切であり、今後の実践を期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加いただき、情報やアドバイスを頂いている。施設待機者数の情報のやり取りも行っている。	町からはメールや電話での情報提供があり、地域包括支援センターからは毎回運営推進会議に出席いただき、情報の提供と各種助言をいただいている。また、介護保険の関係で役場を訪問するほか、成年後見制度の利用などについてのアドバイスもいただいている。今年は国勢調査もあって町から協力依頼もあり、連携する状況が確実に築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会が主体となり身体拘束廃止マニュアルを整備し、全職員が閲覧できるようになっている。委員会の勉強会や定例会議で個々のケアが身体拘束に抵触していないかどうかを検証している。門、玄関の施錠は19時に行い、翌日5時に解除している。防犯上の理由から施錠を行っている。	身体拘束を行わないための指針があり、年4回の委員会を開催するほか、職員に対する研修会も実施している。介護度の高い利用者、車いすを利用する方が多く、家族にも説明して一部の部屋で足元センサーを使用している。無断外出で栗拾いの事例があり、蜂の巣の危険があったことから安全に配慮し穏やかに制止するなどに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止のため、外部の講師を招いての勉強会を開催し「権利擁護・虐待」について学んでいる。 入浴の際には全身観察し、不審な痣や傷がないかを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、日常生活自立支援事業1名利用中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書と口頭にて説明を行い、専門用語を使わずに分かりやすい言葉で丁寧な説明を心掛けている。改定などの際には文書で連絡し、更に電話で不明な点・疑問点が無いかを直接確認している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からのご意見は、面会で来所された時や病院受診時に伺うことが多い。ケアプランの更新時に、ご家族と面談の時間を設けてご意見や要望を伺っている。	利用者一人ひとりの状況を毎月家族に文書でお知らせするとともに、メールで写真を送ることなどを行っており、その際、意見や要望を伺うことになっている。また、5月には「みどりのカフェタイム」を開催して家族の方々を招き、顔を合わせる機会を作っている。利用者家族間相互の意思疎通が十分でない場合も、家族それぞれに丁寧に説明して、利用者が理念に沿った生活が送れるよう介護支援にあたっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会議やカンファレンス・ミーティングノート等で意見・提案を出しやすい機会を設けている。各ユニットに、介護リーダー、副リーダーを配置し、職員が話しやすい環境を整えるように配慮している。	各種委員会の中で職員からの意見を集約して実践に活かしている。管理者による個別面談は行われていないが、職員は毎年「働き方希望調書」を提出して意向を伝えることのできる仕組みがある。また、各ユニットにリーダー、副リーダーを配置し、日常のこと、身近な相談などが出しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期に一度、働き方アンケートを実施し、職員が個々にスキルアップのために行っていることや、業務上で力を入れていることなどの把握に努め、介護職員処遇改善加算を特別手当として支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修の開催で外部から講師を招き学ぶ機会を設けている。また、当施設職員で構成されている各委員会主催の勉強会を毎月開催し、自己研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症高齢者グループホーム協会に加入し、外部研修や地域会議で同業者との交流がある。現場での困難な事例についても参考意見をもらう等、サービスの向上に取り組んでいる。		

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	管理者、計画作成担当者が、ご本人から心配事、要望などを話しやすい雰囲気作りを心掛けている。日常生活の中や面談の中での対話を積み重ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との面談や電話などで、不安な事や困っていることなどを伺っている。入居後はできるだけ多くの機会に利用者の生活状況を伝え、何か変化があればその都度電話にて報告・相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成担当者がアセスメントを実施し、ご本人と家族が困っていることを明確にし、ご本人に必要な支援を居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの担当者とも連携しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として、地域の行事、伝統料理、生活の知恵等を教えて頂くことも多い。着物や洋服の仕立てを職業にされていた利用者には、ズボンの裾上げや繕い物をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な時には電話で相談したり、面会や病院受診などの際に、自宅で生活していた時の様子を教えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の高齢化で、馴染みの店や床屋に通うことは難しくなっている。地域の演芸会のDVDを鑑賞したり、町の広報誌を見るなどして、地域の行事などを懐かしんでいる。テレビ番組で町関連の特集があった際には、録画して観て頂いている。	以前は隣接のデイサービスを利用する馴染みの方が訪れることなどがあったが、近年はほとんど無くなっている。絵本やカタログを見るのが好きな方、地域の演芸会のDVDを鑑賞する方への配慮は欠かさないようにしている。外部から感染症を持ち込まないために始めた、職員による利用者の散髪が今では定着しているが、家族との外出で馴染みの美容院を利用される方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ホールでの座席を、性格や相性で調整している。孤立しがちな利用者には職員が間に入り、他の利用者との関りが持てるようお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移ったり、入院などで退居された際には、担当ケアマネジャーや医療関係者に、当施設での生活状況や介護情報を提供している。また、ご家族からの相談には随時対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人からお話を伺ったり、それが困難な方には生活の状況を観察して職員間で情報共有している。日々の生活の中で職員と一対一で向き合える時間を設け、ご本人の思いをくみ取れるように心掛けている。	利用者の半数は言葉を発することも困難な方であり、中には座位が難しい状況の方もいることから、一人ひとりと向き合う場面で寄り添いながら、気持ちや意向を確認することに努めている。介護度の低い利用者には、その方のできることをやってもらうよう声掛けし、本人の気持ちにお任せしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期段階で、ご本人・ご家族からお話を伺ったり、担当ケアマネジャーから情報提供してもらっている。入居後は、コミュニケーションの中でご本人に言葉、仕草、表情から推測し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝と夕の業務引き継ぎで、利用者の体調面、食事量、排便の有無、エピソードなどを確認している。利用者一人ひとりの得意なことを職員が把握できており、日中活動に活かしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人とご家族に意向を確認し、計画作成担当者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。利用者全員分のカンファレンスを毎月行い、必要に応じてモニタリング、プランの見直しを行っている。	3か月ごとにモニタリングを行い、居室担当者からの情報提供を受けて計画作成担当者(2名)が原案を作成している。利用者の状況については、夜勤担当の際に記録されることが多く、理念を基とした職員全員によるカンファレンス、利用者、家族への説明と承諾を得てプランを実践し、併せて、主治医の意見も取り入れるようにしている。短期3か月、長期6か月の単位で、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の様子は個別に記録されている。日勤者と夜勤者間で情報を共有し、体調面での変化や気づきについても記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	車イスを使用している利用者の通院の際には、施設のリフト車で送迎を行っている。髪を切りたいと利用者から要望があった際には、職員が散髪を行い大変喜んでいただいている。定期的に「耳垢」掃除に通う家族にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	年2回実施する避難訓練では、地域の住民の方にも参加いただき利用者が安全に避難することができるようにご協力いただいている。近所の建設会社からは除雪作業にご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族が希望する病院へ通院している。多くの利用者は、国保種市病院をかかりつけ医としている。病院受診は基本的にはご家族にお願いしているが、車イス利用の利用者が多く施設の車で送迎だけする方や、ご家族の都合で職員が受診に立ち会う事も多い。歯科往診も随時依頼し、義歯の不具合やかみ合わせの調整を診て頂いている。	多くの利用者が協力病院の国保種市病院をかかりつけ医としており、八戸市内の病院をかかりつけ医としている利用者もある。受診は家族にお願いするのが基本であるが、車椅子利用者が多い状況から事業所が送迎する場合もある。皮膚科、歯科受診など必要に応じた受診が行われ、通院申し送り表の提供による医療機関へのデータ提供など関係も良好であり適切な医療が確保されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	敷地内のデイサービス看護師に相談し、アドバイスを受けられる体制が整っている。緊急時には協力医療機関へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、施設での様子や病歴などの情報を提供している。病院関係者との関係作りは、電話でのやり取りが主になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に、看護師が配置されていない為、痰吸引、経管栄養などの医療行為は行えないことを丁寧に説明し、了承を得ている。重症化が見られた場合には、かかりつけ医や町内の他の施設と相談し、より良い支援を検討するようにしている。	事業所として看取りを行わないことは家族にも説明して了解を得ており、重度化した場合にはギリギリまでケアを行うこととし、協力病院医師からの指示を受けての対応としている。これまで事業所内で亡くなられた例は無く、現在もそのような状況にないが、状況に応じ看取りが必要となった場合をも想定した備えが必要になっている。	今後において、状況次第で事業所内における看取りを行う必要が生じた場合を想定した手順の確認など、先行して職員研修を勉強会の中で計画されるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時の緊急時対応マニュアルがあり、緊急時にはマニュアルに沿って行動している。施設にAEDを設置し緊急時に備えている。AEDの使い方についても定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時マニュアルがあり、職員は年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を消防署の指導を頂き実施している。運営推進会議委員による避難者の見守り支援の協力も受けている。ハザードマップを活用し、避難経路、避難場所の確認も行っている。災害BCPも整備し、災害時に備え、研修も実施している。	ハザードマップ上、水害のリスクは低いことから、避難訓練は火災を想定して年2回実施している。停電が多い地域であることから、自家発電装置を確保している。車椅子利用者が多く、介護度が高い利用者が多いことから、特に夜間での災害発生には注意が必要であり、地域の方々の見守りなど協力関係が不可欠になっている。食糧備蓄などは確実に実行されている。	車いす利用者が多いなど災害発生時の避難には特段の注意が必要であり、特に夜間における災害を想定した訓練を行い、課題等を見出す試みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士の会話や申し送りの際には、利用者の耳に入らないように配慮している。入浴や排泄介助の際には誇りや自尊心を損ねる事がない様に利用者の心に届くような言葉掛けや対応を心がけている。	職員の言葉遣いで察する利用者もあることから、話し方には注意を払い寄り添った対応を心掛けている。入浴や排泄介助などのプライバシーへの配慮は欠かさない。介護度の低い活発な利用者には一人ひとりを尊重して、役割を持ってもらった共同の作品作成なども視野に入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自分の気持ちを話しやすい状況や場所などに配慮している。個々に向き合える時間を設け、毎日の生活で困っている事ややってみたい事などを伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や入浴時間などの基本的な生活時間は概ね決まっているが、その時の利用者の体調や気持ちを大切に、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る洋服選びをお手伝いしたり、希望者には職員が散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に食事の準備や調理を行うことは難しくなっているが、調理の音や匂いで今日の献立について話題にすることが多い。ミキサー食を提供している利用者が11名いるが、副菜や味噌汁の具材を説明しながら一口一口提供している。	栄養食事委員会でメニューを作成し、事業所内で職員が調理している。台所が居間に隣接していることから、調理する音や匂いが利用者にも伝わっている。地元の食材に拘り、自家農園で栽培するジャガイモ、ネギ、大根なども提供している。今年はスイカが豊作で、好評であった。敬老会や七夕、クリスマスには行事食、誕生日には好きなものなど、皆で食事を楽しむことができている。利用者の高齢化・重度化に伴い、利用者の作業参加は難しくなっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月の体重測定で栄養摂取、体調等の目安にしている。一日の行動表で食事量や水分量を把握し、咀嚼力、嚥下力、その日の健康状態に合わせた食事形態で提供している。ミキサー食提供が11名のうち、お粥までミキサー食が5名いる。食事だけで栄養が不足している使用者には、補食にコーンスープ、甘酒なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを勧めている。お一人で難しい方には、義歯の装着、洗浄をお手伝いしたり、口腔内の拭き取りを行っている。必要に応じて歯科往診を依頼し、義歯の不具合を調整、修理して頂き、口腔内環境を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、その方にあったタイミングで声掛けをしてトイレに案内している。現在、布パンツ使用者が2名、リハビリパンツ使用者が7名、オムツ使用者が9名となっている。	時間のかかる利用者が多いことから、一度に声がけするのではなく、チェック表を確認しながら渋滞することの無い誘導に努めている。布パンツは2名だけで、リハビリパンツ7名、おむつの利用者が9名、夜間のポータブル利用者も4名であるが、職員の工夫により、トイレの円滑な利用が進められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	こまめな水分補給や乳製品、食物繊維の多い食品を取り入れた献立づくりを心掛けている。毎日の軽体操や食後の散歩など、無理のない範囲で体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にあった支援をしている。	週2回の入浴を基本としているが、その日の体調や、病院受診に併せ柔軟に対応している。長湯になりがちな利用者にはタイマーを使い入浴時間がわかりやすくなるような工夫をしている。	介護度の高い利用者、車いすを利用する方も多いため、一般浴は5人だけで、13人が機械浴となっている。既存の機械浴設備では十分ではない状況にあるが、職員の工夫と尽力によって週2回の入浴が確保されている。長湯になる方もあり、入浴を楽しむ、清潔を保つことができている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なりネン交換やベッドメイキングで、気持ち良く休む事が出来るような環境を整えている。夜間、寝付けない方にはホールに案内して水分補給を勧めたり、職員がお話を伺ったりと個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者のお薬情報についてユニットごとにファイルにまとめ、薬の目的、副作用、留意点などの医師や薬剤師からの情報をいつでも確認できるようにしている。配薬から服薬までに5段階で確認者がおり、確実に服薬できる工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	編み物や縫物など、利用者の得意な事、好きな事、出来る事を把握し、支援している。繕い物や鍋敷き作りから、メモ用紙作り、新聞紙を裂いていただくなどをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	自宅への外出・外泊を希望される利用者には、ご家族と相談して日にちの調整を行っている。病院受診後にご家族と一緒に食事をしたり、ご自宅でゆっくりされてくる方もいる。気分転換に庭を眺めながらお茶を楽しむ機会も設けている。	日常的な外出が可能な利用者はドライブで産直を訪ね、たい焼きを購入することなどを楽しんでいる。以前は隣接のデイサービスとの交流、夕涼み会があったが、今は困難であるものの、天気の良い日には園庭に椅子を出してお茶を飲んだり、おやつを食べることが行われ、良い気分転換となっている。車いす利用者が増えたため、遠出のドライブへの対応が課題と認識している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で財布や現金を管理している利用者はいない。病院受診の際に売店やスーパーに立ち寄り、買い物の機会を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 (西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話を使用している利用者が1名いる。電話や手紙のやり取りをすることは難しくなっている。ご家族からの季節の絵葉書や写真入りのはがきを部屋に飾りいつでも目にすることができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	掃除の行き届いた清潔な空間を心掛けている。レクリエーション委員会が率先して、壁に季節を感じられる飾り付けを行っている。テーブルに花を飾り「きれいだね」「この花な何だったかな?」と会話が弾んでいる。	天井が高く、明るい食堂兼居間はエアコン、床暖房などで温度や湿度が管理され、清掃が行き届いて快適な環境がつけられている。壁面には塗り絵などの作品が展示されるとともに、大谷選手、羽生結弦選手の顔写真なども飾られていた。利用者は思い思いに椅子に腰かけ、居心地の良い、理念にあるゆったり、のんびりとした時間を過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置の仕方、気の合う方同士、静かに過ごしたい方とそれぞれが快適に過ごすことができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には、馴染みの物やご家族の写真をお持ちいただくように声を掛けている。各居室の担当職員が定期的に整理整頓を行い、清潔で居心地の良い空間を提供できるように努めている。	ベッドとタンスが備え付けられており、入居にあたって家族の写真や馴染みの物がそれぞれ持ち込まれている。居室担当職員が室内の清潔に努めており、利用者が安心して穏やかに過ごすことのできる空間がつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者がわかりやすい様にトイレや浴室などに大きな案内板を掲示している。また、各居室には離れた場所からもご自分の部屋がわかるように大きく名前を表示している。室内からホールまでは手すりが設置され、安全に移動できる環境を整えている。		